

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和6年7月30日 蛭川地区区長会・蛭川振興会

開会

代表 あいさつ

今日は区長会の5名、商工会、観光協会、振興会事務長、議長というメンバーで、手元資料の①「リニア駅周辺の市街地がどのように変わっていくのか」蛭川地域の長所とそれを活用した振興をどうしていくのかについて、②「蛭川の未来」定住できるまちづくり、をテーマとする。よろしくお願いします。

市長

1月に就任して半年になる。この対話集会は市長公約に掲げたが、市民の皆さんが主役だということ。その主役である市民の方のそれぞれの地域の色々な声を聞いて、それをできるだけ市政に反映させていきたいと考えている。

限られた時間だが、できたら全員の想いやご意見をお話しいただけるとありがたい。

参加者

①は「リニア駅周辺の市街地がどのように変わっていくのか」について。リニア駅が10年後と延長になったが、リニア駅周辺の市街地が今後10年間でどのようなレイアウトになっていくのか、それにより我々の地域がどのように変わっていったらいいのか。市長はリニア駅を今後どうしたらよいと考えるのか。今我々がわかっているのは、リニアの駅の裏側、中津川駅からリニアの駅の間を整備ぐらいで、周辺エリアが今後変わっていくと思うが、駅ができて何も変わらない、活性化しないという懸念もある。どういった活性化プランをお持ちであるかをお聞きしたい。

参加者

2027年の予定だったリニア新幹線が延期となった。蛭川はリニア新幹線岐阜県駅から車で約10分という立地で、観光業や商工業者はこの開業を当地域の経済活性化の起爆剤として考えていたので、大変ショックを受けている。しかし、逆に開業まで少し時間ができたことで新たな取り組みもできると考えている。

蛭川は石材業が多く、石の博物館の博石館があり、地盤が強いというのは昔から言われていて、地域では昔から地震などの災害に強いと言い伝えられている。地盤がどのくらい揺れに強いかを数値で確認できるサイトで調べたところ、東京、名古屋、飯田、美乃坂本駅などと蛭川を調べて、蛭川は地盤が強い。観光協会としては、リニア開業を踏まえ、リニア駅からの近さとともに、地盤が強いイコール災害に強いということをSNSやウェブで発信し、今後の観光や定住推進、企業の誘致などにつなげたい。そこで市長には、このリニア新幹線開業後の駅を含めた活用ビジョンをお聞かせ願いたい。

市長

リニアの開業は10年近く遅れるのは残念なことだが、マイナスにとらえるのではなく、この10年間で有効活用できると前向きにとらえている。駅周辺の開発や、開業時のまちづくりをじっくり考える期間ができたことになる。

リニア開業には、観光誘客、距離的な近さなど、近隣の市町の皆さんも非常に期待をされている。中津川市だけではなく、周りと一緒に頑張ってまちづくりをしていかなければならない。

そんな中で、中津川市がどんなまちづくりをしていくかについては、坂本の駅前周辺に具体的に何ができるといったことはまだ決まっていない。例えば宿泊施設や飲食店だとかいったものも、これからいろんな方のお知恵も借りながら進めていく。

この10年間で煮詰められると思っている。観光協会長がおっしゃったように、地盤の固さを前面に出して誘致していくのもひとつだと思うし、蛭川は石材を前面に出すのもいいと思う。

都会的なものを求めて観光客が中津川に来ることは多分ない。中津川の自然豊かなところ、今の中津川が持っている資源である、山、木、川、森を存分に出すようなまちづくりをしていきたい。

10年後にはさらに働き方も大きく変わっていると思う。それを見越した上で、例えば2拠点生活なども考えながら、観光、定住などを考えていかなければならない。そのためにはまず、蛭川の地元の皆さんがどうしていききたいのかを話していただき、市ともしっかりと連携をとりながら方向性を出していくことが大事だと思う。

参加者

蛭川は非常に地盤が強い、災害にも強いまち・地域ということで、移住や施設を作る上で十分なメリットがある。しかし、それだけでは多くの移住者にとって、移住してくるには不十分だと思う。やはり地域が一体となり、商工会、振興会、商工会観光業界が中心となって、まちづくりを進めていくようにと思っている。リニア開業が延びたことをプラスに受け止めて、蛭川がよりよいまちになるように、地盤の強さを活用して、自然を生かしつつ、未来の子どもたちのために、一生懸命考えていきたいと思っている。

参加者

我々の地域だけでは大変なことなので、行政のバックアップはもちろんのこと、未来が見えるような仕組みづくりが必要だと考えている。

周辺地域と言えば蛭川だけではなくて、南には阿木、北のほうには加子母がある。今どんどん少子高齢化が進み、蛭川も今年とうとう3千人を切ってしまった。地域に住む以上、子どもたちが蛭川に生まれてよかった、これからも蛭川に住んでいきたいと思えるような地域にしていくのが我々の責務である。そうしなければ、中津川市にリニア駅ができて、資源を活かすところが、人材がいなくなってしまう、生かせなくなるということになりかねない。

これから②の蛭川の未来ということで、定住できるまちづくり、働く場所もしくは帰ってきてもらえるような地域づくり、よそから来てもらえる魅力ある地域づくりをどうしたらいいのか。今度は子ども関連についてお話をさせていただく。

参加者

蛭川は非常に教育に熱心なところで、区長会でも折に触れて「子どもたちのために」を合言葉のように使っている。歴史的には明治初期の学生改革のときに、勤彊義校という名前で小学校が作られた。その後、蛭川では勤彊とか勤勉彊直という言葉を大切にきて、青年団では勤彊義塾という塾を、大人たちが勤彊塾を作った。現在、中学校の校訓も勤彊を掲げている。強い心を持って、真面目に努力をするという意味になる。

蛭川勤彊未来塾というと、令和5年度からコミュニティスクールがスタートし、蛭川では学校と地域と一緒に運営に取り組んでいる。学校が地域の人に参加してもらうという方向と、地域が学校に協力を仰いで参加、活動、教育活動するという双方向の関係の中で、子どもたちは地域の中で育つという考え方で進めている。

それから、「なんでも塾」という地域の人がボランティアの先生や講師としていろんな教室をやっている。お茶の教室や軽スポーツ、天体観測、蛍の観察、数学などの教室を10ほど開いており、他の地区にはない蛭川の自慢のひとつだと考えている。

こういう蛭川だが、少子化問題で学校の統廃合を非常に心配している。学校が廃校になったことでコミュニティが衰退していく例もあるが、蛭川は教育を非常に大切にしてきた地域として3つの価値がある。

1つ目は、安心安全な地域ということ。自然環境に恵まれ、地盤が強固で大きな災害もあまり起きていない。親が安心して子育てができる。

2つ目は、コミュニティが健全であるということ。防犯という点でも、振興会を通して、子どもを巻き込んでいろんな活動をしている。地域の教育力があると自負している。利便性だけで計れない教育的な価値だ。

3つ目は、少子化対策。蛭川は地理的に他地域とは若干独立している部分がある。今、勤労未来塾では、子育て支援センター、未就学の小さな子どもたちも巻き込みながら、地域全体で子育てに取り組む組織を作りたいと構想している。実は、園小中の校舎が老朽化しており、そろって改築の時期を迎える。1つにまとめて、効率的に建て替えできたら、学校の統廃合ではなく、義務教育学校あるいは小中一貫校といった教育が行われる学園にしていきたいと考え、その種まきを勤労未来塾として行っていきたい。

学校のない地域には、親は来ない。リニア効果でこれから人口の流動化、働き方、人の動き、生き方も変わると思うが、その中に社会的な変化とか時間軸も含めて、蛭川を応援していただきたい。

市長

地域の皆さんの子どもたちを支える取り組みは本当にありがたい。私も市長になる前は約10年間、教育委員として市内の学校を訪れていた。思いは皆さんと全く一緒。

先ほど3つの価値の中の安全安心について、ハード的な地盤は申し分ないところで、地域の連携で子どもたちを守っていただいていると思う。

蛭川に限った話ではなく、一番難しいのは少子化対策で、これをやればいいというものがない。世の中の流れと考えると、少子化に歯止めはかからないが、大きな課題のひとつなので、意見をいただきながら進めている。

家族で移住定住してもらうという動きは全国的にあり、中津川市でも多くはないが、ある。先日も阿木地区の対話集会で、移住経験のある若い人たちが移住者を増やす活動をしている話を聞いた。これが、市内全域に広がることを期待している。市内の成功事例などの情報を共有しながら、できることをやっていくのが大事だと思う。なんでも塾などの特色を活かしながらの取り組みは、目玉になるのでどんどんやってもらいたい。

学校の統廃合に関しては、子どもたちの学ぶ環境を第一に考えたときに、中津川市内の小学校、中学校と幼稚園、保育園含めて適正規模、学校規模適正化は検討が必要で、今順番にやっている。地域の皆さんにもご理解いただきながら、今は小学校、幼稚園の適正化が進んでいるが、個人的には中学校だと思っている。部活の数が少なく、団体競技はチームを組めなかったりして、やりたい部活ができない状況がある。子どものために検討していく必要がある。

参加者

今市長のおっしゃったことは、我々が今痛切に感じているところ。

また、我々の教育以前に、自由が欲しい若者が結婚しない。結婚したくない人は6割が女

性だという。社会的にも学歴社会で大学費用の負担が重くのしかかり、養える子どもの数が減ってしまう。そういう親を見て、子どもは結婚しない方がいいと考える。現実的に社会的な現象と言わざるを得ない。そういった点でも、子育てがうまくやっていると、将来的な目標づくりができる仕組みづくりをお願いしたい。

参加者

観光協会、商工会、勤王未来塾から聞いたと思うが、他にも恵那峡ワンダーランド、博石館、稲が実っている風景があるのが蛭川。杵振り踊りや、夏祭り、まだまだいろいろ行事をやっているが、参加者も来場者も割と若い人が多い。若い家族が子ども連れでたくさん参加してくれるので、もっと活気づいたことができないかと、そういう気持ちに私自身もなっている。

市長には蛭川を知ってもらい、情報の提供や協力をお願いしたい。ここにはエネルギーのある人たちがたくさんいる。そういう環境を我々は持っているので、目を向けていただきたい。

それから、自然豊かで人情深い生活環境を活かし、若い人が集まる環境づくりがしたい。蛭川地区はマンションやアパート、住宅があまりない。空き家もあるが借り手がないというか貸し手がない。人が集まるよう産業誘致にも目を向けていただきたい。

参加者

今話が出たように、若い人、特に女性の定住できる環境づくりが一番の優先事項だと思う。女性が都会に出て行って帰ってこないため、少子高齢化が進んでしまう。若者の働く場所の確保や、移住者を受け入れる仕組みを、リニア開通に向けて検討してほしい。

市長

若者の参加が多いのはこの地域の特色だし、杵振り踊りのように子どもたちが伝承しているのは素晴らしい。杵振り踊りや「なんじゃもんじゃ」などの地域の特色をまだまだ生かせる。ネガティブな考えではなく、ポジティブに前向きに取り組むことが大切。

先ほど空き家の話が出たが、移住を考える際、仕事と住まいが重要。移住者は新築よりまずは空き家に住む方が大半だと思う。しかし、賃貸の空き家は極めて少ないので、増やすことができれば1つのきっかけとして移住につながるのではと思う。

平成の大合併で縁があり、蛭川地区の皆さんが中津川市と一緒にやってよかったとなるよう、この地区を盛り上げていくために何ができるか、一緒に考えていきたい。

参加者

中津川市になってよかったと思える蛭川にすることが大事だと感じた。蛭川の生活圏はほぼ恵那にあり、違いが現れているが、小栗市長のもとで蛭川がよくなれば、中津川になってよかったという結果が出ると思うので、期待している。

子どもたちに蛭川の自慢を聞くと、信号がない、国道がない、鉄道がない、バスがない、コンビニがない「何もない」ことが自慢だという。ポジティブに考えればそのとおり。

中津川市の一員として、市長とともに新しい考え方で、リニア開通に向けての未来を作り上げられたらいい。未来の子どもたちのために、少しでも良い蛭川を作っていきたい。

市長

貴重な意見をいただきありがとうございます。今後も対話を続けていきたいと思う。

10年後のリニア開業は、早めに絵を描いたうえで、それに向けて行動することが大切。新しいチャレンジや今の取組みをさらにスケールアップさせてPRすることが大事だと思う。

名古屋城の石垣に蛭川の石が使われている。名古屋市の方によると、石の調達に非常に困っており、なかなか大きな石が確保できない中で、快く提供していただいたと。また本丸御殿の木も中津川市の木を使っていたとおり、PR材料は多くある。情報共有しながら、プラスに捉えるような取組みを続けていきたい。